

千葉県立長生高等学校5か年計画

# 長生高等学校改革プラン

実施期間：令和2年度から6年度まで

令和2年9月3日



# はじめに

長生高校は、これまで、先進的な教育活動に取り組み、地域の中心校としての役割を果たすとともに、東京大学など質の高い豊かな学びのある大学に多くの生徒を進学させ、生徒・保護者、同窓生、そして地域の期待に応えてきました。

しかし、地域産業を支えてきた大企業の撤退や、人口減少・少子化など、地域全体の地盤沈下とともに、長生高校も期待どおりの進学実績が出せていない状況です。

長生高校が、地域の期待に応える新しい学校となるためには、本校自身が主体となって、生徒や保護者とともに、教育活動の改革に取り組む必要があると考えています。

そこで、10年後、2030年（令和12年）以降の地域、日本、そして世界の変化を見据えつつ、長生高校の「目指す姿」を示すとともに、明確な「取組方針」と「基本目標」を掲げ、その実現に向けた「重点的な取組」を本計画で示します。

令和2年9月

千葉県立長生高等学校長 河野 安勝

# 目次

|     |                                    |    |
|-----|------------------------------------|----|
| 1   | 計画の概要                              | 1  |
| 2   | 本校を取り巻く状況                          | 2  |
| (1) | 入学者選抜の志願倍率の推移                      | 2  |
| (2) | 人口減少・少子化                           | 3  |
| (3) | 進学実績                               | 4  |
| 3   | 本校の目指す姿                            | 5  |
| (1) | 生徒の目指す姿                            | 6  |
| (2) | 教員の目指す姿                            | 7  |
| (3) | 学校目指す姿                             | 8  |
| (4) | 地域の目指す姿                            | 9  |
| 4   | 取組方針・基本目標                          | 10 |
| (1) | 取組方針                               | 10 |
| (2) | 基本目標                               | 10 |
| 5   | 重点的な取組                             | 11 |
| (1) | 志を持ち、粘り強く、自ら挑戦する生徒を育てる             | 11 |
| ア   | 社会のリーダーや新しい価値を創造する人材の育成を目指す進路指導の充実 | 11 |
| イ   | 学習意欲と知的好奇心を高め、興味・関心を喚起する学習指導の充実    | 13 |
| ウ   | Team 英語科の取組の一層の充実                  | 14 |
| エ   | 社会課題の解決に挑むリーダーの育成を目指す総合的な探究の時間の充実  | 15 |
| (2) | 強い使命感を持ち、チーム学校を実現する教員となる           | 16 |
| ア   | 業務の抜本的な見直しと働き方改革への意識改革             | 16 |
| イ   | 新しい教育課題に対応した学校組織体制の見直し             | 17 |
| ウ   | 新しい教育課題に対応した教員研修の充実                | 18 |
| (3) | 地域の期待に応え、信頼される豊かな学びのある学校を創る        | 20 |
| ア   | 社会課題に挑むリーダーとイノベーターの育成に取り組むSSH      | 20 |
| イ   | 生徒の資質・能力を光り輝かせる理数科の在り方見直し          | 22 |
| ウ   | 個別最適化学習の導入など、質の高い授業を目指したICT環境整備    | 24 |
| エ   | 多様な生徒への支援の充実と「通級による指導」の導入          | 26 |
| オ   | 水害にも負けない安全・安心な学校づくり                | 27 |
| (4) | 学校と一体となって「長高生の夢」の実現を図る地域を目指す       | 28 |
| ア   | 開かれた学校づくり委員会とミニ集会の一層の活性化           | 28 |
| イ   | 学校と家庭が一体となった教育の充実                  | 29 |
| ウ   | 地域の協力を得て入学希望者の増加を図る取組              | 30 |
| 6   | 指標                                 | 32 |

# 1 計画の概要

## (1) 内容

長生高校の全ての教育活動の基本となる総合的・長期的な計画です。

## (2) 計画期間

令和2年度から令和6年度まで

## (3) 計画の進捗管理

本計画の進捗状況を把握するため、基本目標毎に指標を定め、PDCAサイクルで「重点的な取組」など教育活動の改善を図ってまいります。

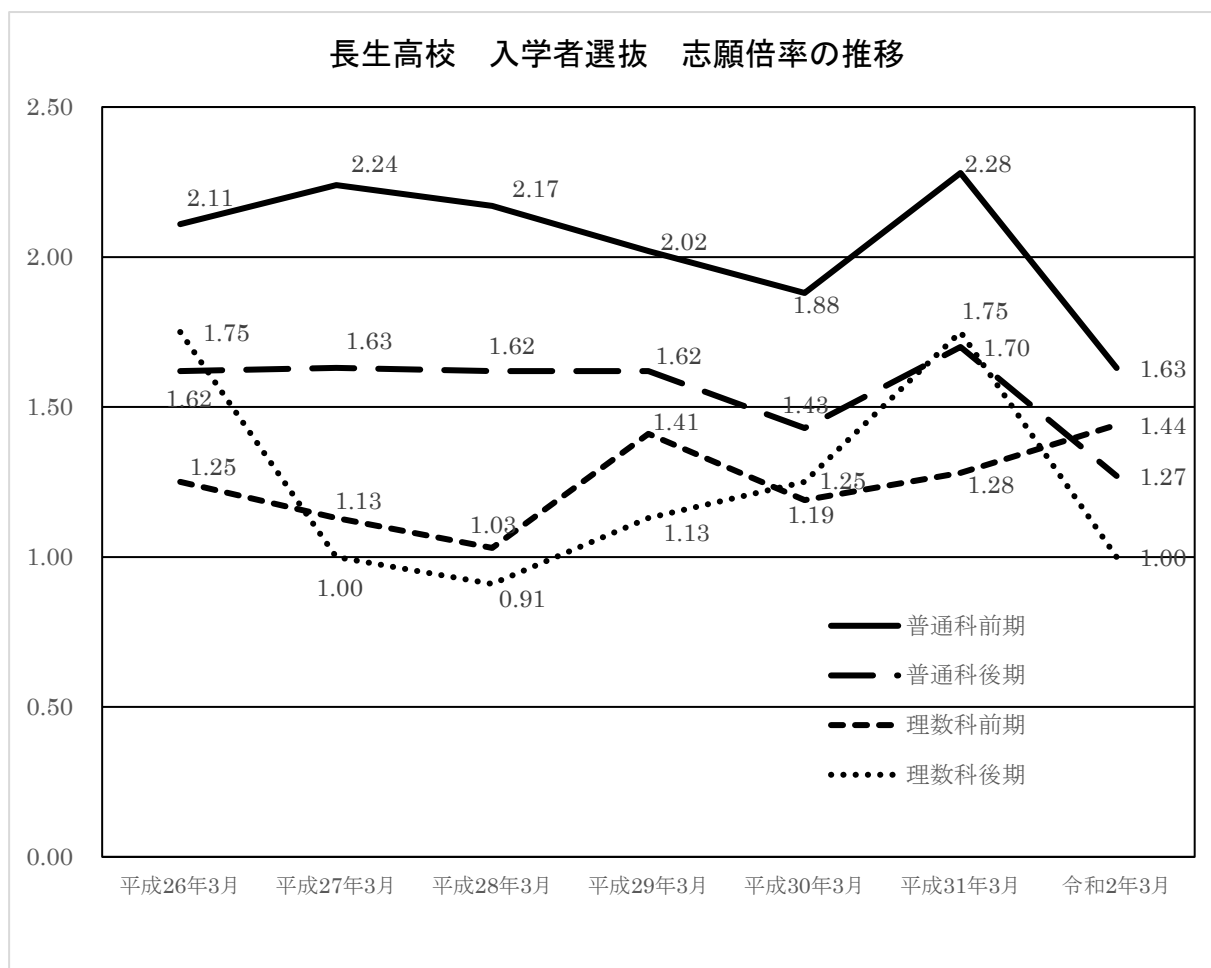
## 2 本校を取り巻く状況

### (1) 入学者選抜の志願倍率の推移

平成31年3月の入学者選抜で、高い倍率を示しているのは、この年から、普通科の募集定員が7クラスから6クラスに減少したことが影響していると推測しています。

令和2年3月の入学者選抜では、平成31年3月の入試と同じ募集定員でしたが、志願倍率が著しく低下しました。

これは、前年度の高倍率のため多くの中学生が敬遠したことや、茂原市内の中学校3年生の人数が約40名減少したことが、原因と考えています。

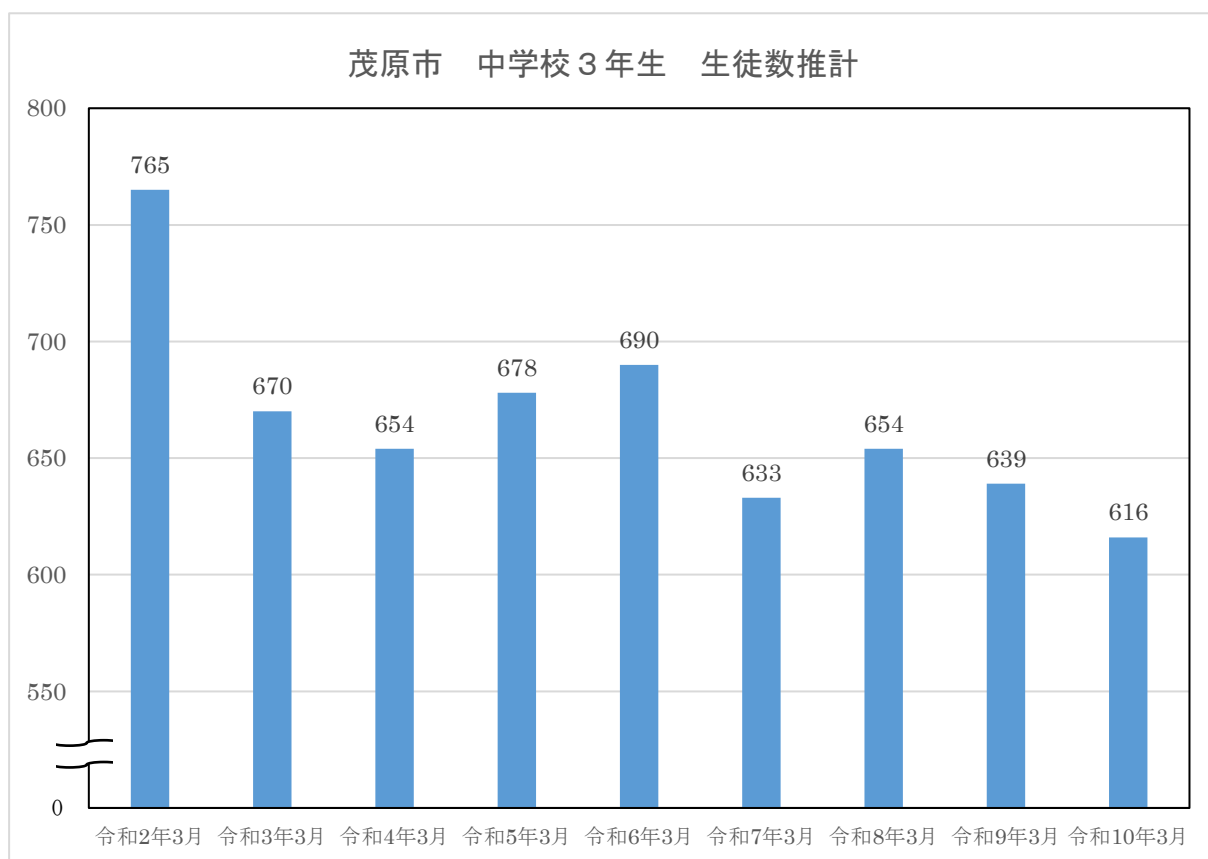


理数科は、普通科に比べ志願倍率が低く、特に、後期入試では1倍を下回ることもあるなど、早急に理数科の在り方を見直す必要があります。

## (2) 人口減少・少子化

次のグラフは、茂原市内の中学校3年生の推計人数を示しています。

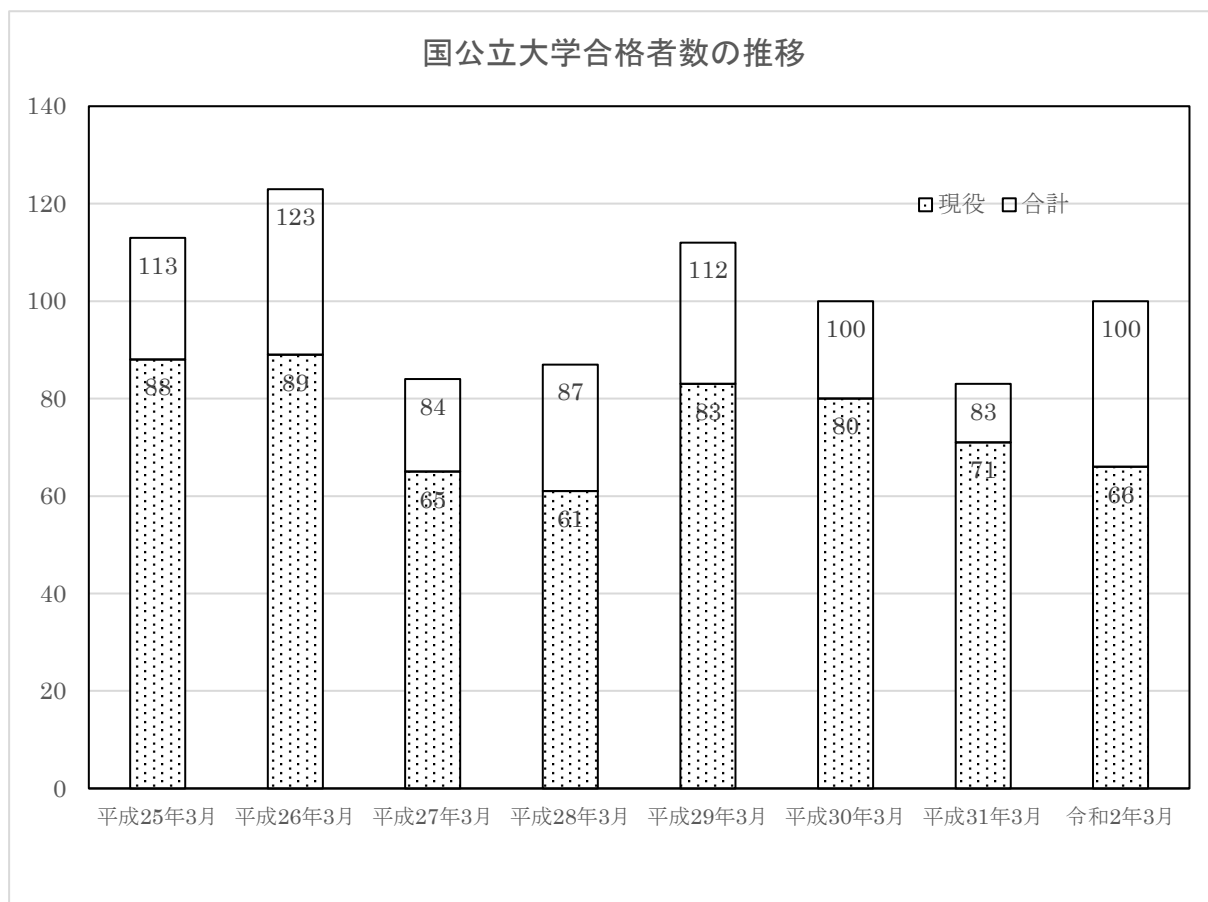
これは、令和元年5月1日現在の茂原市内の小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒数から求めたものです。



令和3年度の入試では、茂原市内だけで約100名の減少が予想され、本校も、今後、普通科の募集定員が減ることも想定しておく必要があります。

### (3) 進学実績

次のグラフは、本校の国公立大学合格者数の推移を示しています。



本校は、千葉県の進学指導重点校に指定されており、進学実績の数値目標として、現役生の国公立大学合格者 80 名以上を掲げていますが、ここ 2 年連続で目標を達成できていません。

ただし、令和 2 年 3 月の大学等合格者数を見ると、現役生の中には筑波大学医学部に合格した者や、浪人生でも東京大学理科一類や京都大学医学部に合格した者もあり、全体では、国公立大学に現役 66 名、浪人 34 名、合計 100 名が合格しています。

### 3 本校の目指す姿

10年後、令和12年（2030年）以降の社会の変化を踏まえつつ、「本校の目指す姿」、つまり、本校が社会で果たすべき役割や期待される役割、本校の存在意義を、次の2点と考えています。

- グローバルに活躍し、国内外の社会課題の発見・解決に挑むリーダーとなる人材の育成
- 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材の育成

本校は、千葉県の郡部にありますが、これまで高い志を持ち、地元地域や日本国内だけでなく、世界を舞台に活躍する人材を多数輩出してきました。

特に、理数科を有し、医学、薬学、工学、理学など、理系分野で多くの優秀な人材を輩出してきた実績があります。

これまでの伝統を引き継ぎ、「本校の目指す姿」を実現するためには、生徒が、本校の学びを基盤として、大学への学びにつなげ、発展、昇華させる必要があります。

つまり、本校は、生徒一人一人に高い志を持たせ、多くの生徒を、東京大学をはじめとする質の高い学びのある大学に進学させることが、本校のミッションだと考えています。

次に、先に示した本校を取り巻く状況を踏まえて、「本校の目指す姿」を「生徒」「教員」「学校」「地域」の4つの視点から整理しました。

## (1) 生徒の目指す姿

10年後、令和12年(2030年)以降の長生高校の「生徒の目指す姿」を次のように決めました。

- ア 主体的に学び、考え、挑戦する生徒
- イ 志を持ち、粘り強く努力を続け、自ら未来を切り拓く生徒
- ウ グローバルに活躍し、国内外の社会課題の発見・解決に挑むリーダーとなる人材
- エ 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

### ア 主体的に学び、考え、挑戦する生徒

複雑で予測困難な社会であるからこそ、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かにすることが求められています。また、複雑化・多様化した現代社会の課題に対して、主体的に学び、考え、多様な人々との協働を通して、その課題解決に挑戦する生徒の育成を目指します。

### イ 志を持ち、粘り強く努力を続け、自ら未来を切り拓く生徒

変化が激しく将来が展望しにくい状況において、社会的・職業的自立を実現するために、高い志を持って可能性に挑戦することが求められています。各教科等の学びと将来の職業との関係に意義を見いだして、日々学んでいることを将来社会で役立てられるよう、粘り強く努力を続ける生徒の育成を目指します。

### ウ グローバルに活躍し、国内外の社会課題の発見・解決に挑むリーダーとなる人材

グローバル化の一層の進展が予想される中、言語や文化が異なる人々と英語で自信を持って自らの意見を述べ、交流し、主体的に協働することが求められます。また、他人と協働するリーダーシップや、チームワーク、コミュニケーション能力、豊かな感性、多様性を尊重する態度などを備えた社会のリーダーとなる人材の育成を目指します。

### エ 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

2030年頃には、I o T (Internet of Things) や人口知能(AI)等をはじめとする技術革新が一層進展し、超スマート社会(Society5.0)の到来が予想されます。技術革新や社会・制度の変革などを通じて新たな価値を創造し、社会におけるイノベーションをけん引する人材の育成を目指します。

## (2) 教員の目指す姿

10年後、令和12年（2030年）以降の長生高校の「教員の目指す姿」を次のように決めました。

- ア 使命感と学び続ける意欲を持ち、新しい教育課題に挑戦する教員
- イ 高い専門性と授業の実践力、指導技術を身に付けた教員
- ウ 生徒に高い志を持たせ、一人一人のポテンシャルを高める教員
- エ 教育公務員としての誇りを持って、チームとしての学校を実現する教員

### ア 使命感と学び続ける意欲を持ち、新しい教育課題に挑戦する教員

本校教員は、生徒の模範であるという使命感や責任感を持って学び続けるとともに、新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現するため、積極的に諸課題の解決に取り組む熱意と、新しい時代の教育に挑戦します。

### イ 高い専門性と授業の実践力、指導技術を身に付けた教員

本校教員は、学習指導においては、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学びの質を高めるICTを活用した授業の導入など、常に学習指導の実践力向上に取り組めます。併せて、発達障害を含む障害のある生徒等への支援や、いじめ・不登校など、複雑化・多様化する課題に対応できるよう、日頃から積極的に研修に取り組めます。

### ウ 生徒に高い志を持たせ、一人一人のポテンシャルを高める教員

本校教員は、進路指導においては、生徒が将来社会を支え、発展させ、国際社会をリードする人材となるという夢と志を育み、可能性に挑戦する意欲を高め、生徒一人一人の自己実現の視点に立った授業展開、体験活動、ガイダンスとカウンセリングに取り組めます。

### エ 教育公務員としての誇りを持って、チームとしての学校を実現する教員

本校教員は、教育公務員としての誇りを持って、学校全体で学校経営ビジョンを共有し、持続可能な学校を創るため、教員間での連携や協力、相互理解を図るとともに、長時間労働を無くすなど業務の改善を図り、組織的・計画的に業務を進めます。

### (3) 学校の目指す姿

10年後、令和12年（2030年）以降の長生高校の「学校の目指す姿」を次のように決めました。

- ア 地域とともに、長生高校の輝きを取り戻す
- イ 生徒の夢と能力を開花させ、保護者・地域から信頼される学校
- ウ 誰一人取り残さない教育を実現する学校
- エ 質の高い豊かな学びのある学校

#### ア 地域とともに、長生高校の輝きを取り戻す

地域から大企業が撤退するとともに、本校が所在する地域は、人口減少、少子化が急激に進んでいます。しかし、本校は、学校の目指す姿を保護者・地域と共有し、保護者の協力と地域の応援を受けて、校長が改革の先頭に立って、地域とともに魅力ある学校づくりを目指します。

#### イ 生徒の夢と能力を開花させ、保護者・地域から信頼される学校

生徒と向き合う時間が十分確保され、職員がそれぞれの専門性を生かし、チーム学校の一員として自分の役割や責任を果たす学校を目指します。そして、生徒一人一人の能力を最大限まで引き出し、生徒の夢と希望を実現し、保護者・地域の期待に応えるとともに、保護者・地域から信頼される学校を目指します。

#### ウ 誰一人取り残さない教育を実現する学校

持続可能な開発目標（SDGs）の一つである「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて、発達障害など障害のある生徒や、心のケアを必要とする生徒、家庭での養育に問題を抱える生徒など、様々な問題を抱える全ての生徒が楽しい学校生活を送れるよう、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを中心として、学校全体で組織的に支援に取り組めます。

#### エ 質の高い豊かな学びのある学校

豊かな学びのある学校を創るため、入学を希望する中学生の実情や、本校生徒の卒業後の進路、地域や社会のニーズ等を調査・分析して、理数科の在り方や令和3年度から始まる第3期SSHの申請について検討します。そして、県教育委員会の令和4年度から始まる新しい県立学校改革プランと方向性をそろえて、地域とともに豊かな学びのある学校を目指します。

#### (4) 地域（保護者・同窓会を含む）の目指す姿

10年後、令和12年（2030年）以降の長生高校の「地域の目指す姿」を次のように決めました。

- ア 学校の教育活動について正確に理解している地域
- イ 学校が地域の教育資源を積極的に活用できる地域
- ウ 学校の教育環境の充実に向けて支援している地域

##### **ア 学校の教育活動について正確に理解している地域**

学校から積極的に学校の教育活動についての情報を発信し、保護者・同窓会だけでなく地域全体が本校の教育活動について理解し、主体的に協力していただけるよう取り組みます。

##### **イ 学校が地域の教育資源を積極的に活用できる地域**

生徒が自立して社会で生活するための基礎となる資質・能力を培うためには、学校だけでなく、家庭・地域において多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていくことが必要です。このため、学校、家庭、地域などが相互に連携・協働して、生徒の多様な教育活動を支援していただける体制づくりを進めます。

##### **ウ 学校の教育環境の充実に向けて支援する地域**

I C Tを活用した授業など豊かな学びを実践するためには、P T Aや同窓会など地域の理解と協力が必要です。今後も、引き続き本校の教育環境を改善するための支援がいただけるようお願いしてまいります。

## 4 取組方針・基本目標

### (1) 取組方針

**豊かな学びで 学校を変える！生徒が輝く！未来を創る！**

生徒一人一人に高い志を持たせ、東京大学をはじめとする質の高い学びのある大学等に、多くの生徒を進学させるため、理数科の在り方を見直し、SSHや「長高メソッド」を活用した社会課題をテーマとした課題研究を一層推進するとともに、ICTを活用した授業改善や、「通級による指導」など生徒一人一人を大切にする学びに取り組み、質の高い「豊かな学び」のある学校を目指します。

そして、生徒の才能を磨き、輝かせ、地域社会や日本の未来を創る人材に育てていきます。

### (2) 基本目標

#### ア 志を持ち、粘り強く、自ら挑戦する生徒を育てる

「主体的に学び、考え、挑戦する生徒」の育成など、「生徒の目指す姿」の実現に向けて、5つの「重点的な取組」に取り組みます。

#### イ 使命感を持ち、チーム学校を実現する教員となる

「使命感と学び続ける意欲を持ち、新しい教育課題に挑戦する教員」など、「教員の目指す姿」の実現に向けて、3つの「重点的な取組」に取り組みます。

#### ウ 地域の期待に応え、信頼される豊かな学びがある学校を創る

「地域とともに、長生高校の輝きを取り戻す」など、「学校の目指す姿」の実現に向けて、5つの「重点的な取組」に取り組みます。

#### エ 学校と一体となって「長高生の夢」の実現を図る地域を目指す

「学校の教育活動について正確に理解している地域」など、「地域の目指す姿」の実現に向けて、4つの「重点的な取組」に取り組みます。

## 5 重点的な取組

### (1) 志を持ち、粘り強く、自ら挑戦する生徒を育てる

#### ア 社会のリーダーや新しい価値を創造する人材の育成を目指す進路指導の充実

##### (ア) 現状と課題

- ・ 進学実績の数値目標として、現役生の国公立大学合格者 80 名以上を掲げていますが、ここ 2 年連続で目標を達成できていません。
- ・ 令和 2 年 3 月の大学等合格者数を見ると、現役生の中には筑波大学医学部に合格した者や、浪人生でも東京大学理科一類や京都大学医学部に合格した者もいましたが、全体では、国公立大学に現役 66 名、浪人 34 名、合計 100 名が合格しています。
- ・ 国公立大学進学を目指した進路指導に取り組んできましたが、生徒に、高いレベルの大学を目標に粘り強く挑戦しようとする気持ちや学習意欲を十分に高めることができず、進学実績が厳しくなっています。

##### (イ) 取組の方向性

- ・ 生徒が高い志を持って、粘り強く進路実現に取り組むよう指導します。
- ・ 生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育てるため、大学や地域、地元企業等との連携のもと、キャリア教育の充実を図ります。

##### (ウ) 具体的に 5 年間で取り組むこと

- 学校全体で進路指導に取り組む体制を整えます。  
進路指導部と担任を中心とした学年職員の役割分担と進路指導のロードマップを明確にし、初めて本校で担任を務める職員も自信を持って進路指導ができる体制を整えます。
- 模擬試験の一層の活用を図ります。  
模擬試験の結果を丁寧に分析し、その分析結果を教科担当者間で共有するとともに、生徒・保護者と繰り返し面談を行い、つまずきの解消に向けた具体的な学習方法を指導します。
- 課外授業の一層の充実を図ります。  
入試対策、問題演習を中心に実施し、生徒の学習レベル、進路希望に合わせて複数の講座を開設します。また、基本的な知識や技能が十分に定着していない 1 年生を対象に学び直しの講座を開設します。
- 放課後、校内で、生徒が安心して自習できる環境を整えます。

- 大学進学への意欲を高めます。  
大学を見学する機会を増やしたり、大学生の先輩から大学生活や勉強方法について話を聞いたりする機会を増やします。
- 生徒の職業観や勤労観の向上を図ります。  
企業や公共機関、医療機関などと連携し、インターンシップや職場見学の機会を増やします。
- 生徒の学習意欲や専門分野への興味・関心を高めます。  
生徒全員が課題研究など探究的な活動に取り組み、大学や研究所だけでなく、地元地域の企業等と連携して、社会課題の解決をテーマに課題研究に取り組みます。

## イ 学習意欲と知的好奇心を高め、興味・関心を喚起する学習指導の充実

### (ア) 現状と課題

- ・ 本校は、若手教員を中心にワーキンググループを立ち上げ授業研究に取り組むなど、アクティブラーニングの視点からの授業改善に積極的に取り組んでいます。
- ・ この実践を一層推進するために、令和元年度に同窓会の支援を受けて、クラスの生徒全員がタブレットやプロジェクタを活用してアクティブラーニングに取り組むことができるようにアクティブラーニングルームを設置しました。
- ・ 本校入学時に、既に生徒間に大きな学力差があり、生徒の中には、与えられた課題に追われ、自主的・自発的に学習に取り組む意欲が低い者がいます。
- ・ 受験や大学進学のために勉強する姿勢が顕著であり、深く考えるなど学ぶ楽しさや、生涯学び続ける意欲に欠けているように見える生徒がいます。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 生徒の学習意欲や知的好奇心を高め、各教科への興味・関心を喚起する授業を実現し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育みます。
- ・ 成績上位層の生徒を一層伸ばす質の高い豊かな学びを実現します。
- ・ ICTを活用して「主体的・対話的で深い学び」を実現します。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 生徒一人一人をより丁寧に指導する授業を実現します。  
数学・国語・英語で、少人数による授業、より細分化した習熟度別の授業の拡充に取り組みます。
- 「ゲームより面白い授業」を実現します。  
実験・観察や調査・研究、フィールドワークなど、探究型の授業を一層推進し、生徒の知的好奇心を高め、興味・関心を喚起します。
- ICTを活用した授業を推進します。  
各教室で、教員がタブレットやプロジェクタ等のICTを活用して授業ができる環境を整えます。また、授業や家庭学習に、スタディサプリ等の学習支援ソフトの一層の活用を推進します。
- 個別最適化された授業を実現します。  
生徒が各自のノート型パソコンで学習できるよう、ネットワークなどICT環境を整え、Atama+等のAIソフトを導入して個別最適化された授業に取り組めます。  
(AIソフトは、生徒のつまづきを瞬時に判断し、修正方法を示し、同様の問題を繰り返し出題することで、生徒のつまづきを解消します。)

## ウ Team 英語科の取組の一層の充実

### (ア) 現状と課題

- ・ 県教育委員会の英語教育拠点校として、先進的にオールイングリッシュの授業を実践し、ALTを積極的に活用した授業に取り組んでいます。また、近隣の小・中・高等学校の教員に向けて、授業公開と授業研究協議会を開催し、本校の取組の普及を図っています。
- ・ 国の英語教育研究協力校として、国の教科調査官の指導を受け、ディベートやディスカッションなど生徒の英語活動に取り組み、指導方法や評価方法の改善に先進的に取り組んでいます。
- ・ 英語科職員が協働して共通のワークシートを作成し、全員がこのシートを活用して授業を行っています。また、ディベートなどのパフォーマンステストについても全員で評価に取り組んでいます。
- ・ SSHの取組で、毎年台湾やマレーシアの高校や大学で、生徒が自分の課題研究について英語で発表したり、現地の学生と意見交換したり、一緒に研究を進めたりしています。
- ・ アメリカのクラシカル高校とオーストラリアのノッサル高校と、姉妹校の協定を結び、20名程度の生徒を相互に交換で短期留学させています。

### (イ) 取組の方向性

- ・ より一層質の高い授業を目指して、英語科職員が一体となって授業の改善に取り組みます。
- ・ アメリカのクラシカル高校とオーストラリアのノッサル高校との交流を一層深めます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 生徒の実態に合わせて授業改善に取り組めます。  
現在の生徒の実態に合わせて、CAN-DOリストやワークシートの見直しを行います。これまでの取組を基盤として、英語科職員全員でより一層質の高い授業を目指して改善を積み重ねます。
- 国際交流を一層推進します。  
英語科職員で構成する国際交流委員会を中心に、グローバル人材育成に向けて台湾、マレーシアなどと国際交流を推進します。また、スウェーデン等から留学生を受け入れるなど、グローバルな環境を作ります。
- 生徒が留学しやすい環境を整えます。  
1年次の成績が優秀な生徒2名を半年間、アメリカ（クラシカル高校）とオーストラリア（ノッサル高校）に留学させます。留学先での学習を本校での学習として一括単位認定できる体制を整えます。また、留学の費用も軽減できるよう関係団体等と協議を進めます。

## エ 社会課題の解決に挑むリーダーの育成を目指す総合的な探究の時間の充実

### (ア) 現状と課題

- ・ 普通科では、環境問題など社会課題をテーマに課題研究に取り組むとともに、学習の基本となる「メタ学力」の習得を目指す「長高メソッド」を活用した総合的な探究の時間に取り組んでいます。
- ・ 「長高メソッド」の取組は、SSHの取組の一つとして、生徒に社会的実践力の育成を図っていますが、SSHの中間評価では、この「長高メソッド」の取組の一層の充実を図ることが求められています。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 「長高メソッド」を活用した課題研究の取組について、実施単位数を増やし、内容の一層の充実を図ります。
- ・ 第3期SSHでは、文理融合の課題研究に取り組みます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 取り組む時間を増やします。  
1年次の1単位にとどまっていた「長高メソッド」の実践を、令和2年度からは、2年次の総合的な探究の時間でも引き続き実施して合計2単位とし、探究的な活動の一層の充実を図ります。
- 社会的実践力のより一層の向上を図る取組に改善します。  
生徒がより良い社会の実現を目指して、高校生の視点で社会課題の解決に取り組む具体的な行動計画（アクションプラン）を作成し、解決に取り組む課題研究に改善を図ります。
- 第3期SSHでは、普通科の全生徒が課題研究に取り組みます。  
普通科の全生徒が、1・2年次の総合的な探究の時間に、SDG'sの17のゴールなど困難化・複雑化する社会課題や、人口減少・少子化が急激に進む地域の社会課題をテーマに課題研究に取り組みます。
- 第3期SSHでは、文理融合の課題研究に取り組みます。  
課題解決のアプローチの方法については、これまでと同様に人文社会的なアプローチや自然科学的なアプローチだけでなく、AIやビッグデータなど先端技術を活用して解決を目指す文理融合のアプローチで課題解決に取り組みます。

## (2) 強い使命感を持ち、チーム学校を実現する教員となる

### ア 業務の抜本的な見直しと働き方改革への意識改革

#### (ア) 現状と課題

- ・ 業務が多く、夜遅くまで残って仕事をしている教員が多くみられます。
- ・ 部活動顧問など分掌のバランスが悪いと考えている教員がいます。
- ・ 自分の意見が学校運営に反映されていないと感じている教員がいます。

#### (イ) 取組の方向性

- ・ これまで取り組んできた業務を根本的に見直します。
- ・ 部活動の在り方を見直し、持続可能な部活動運営を図ります。
- ・ 千葉県教育のリーダーとなって、学校を支える人材を育成します。

#### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 業務の30%削減を目指します。  
各分掌で業務の根本的な見直しを行い、業務を30%削減します。法令や規則で規定されていない業務については、原則廃止の方向で検討します。
- ICTを活用して業務を削減します。  
朝会や会議資料のデジタル化を図り、資料の作成や印刷に係る負担を軽減します。また、メールやテレビ会議システム等のICTを活用して会議自体の開催回数を少なくします。
- ICTを活用して教材研究の負担を軽減します。  
授業中にプレゼンソフトを活用して板書の負担を軽減したり、基本的な知識と技術の定着を図るためスタディサプリ等の学習支援ソフトを活用したりするなど、ICTを活用して教材研究に係る教員の負担を軽減します。
- 部活動を再編し、効率的な体制を整え、部活動運営の改善を図ります。  
参加を希望する生徒数の増減や専門的な知識・技術を持つ顧問の継続的な配置など、部活動の運営状況を基に部活動を再編します。また、外部人材の活用を含めて顧問の配置を工夫し、効率的な部活動の運営体制を整えます。そして、PDCAサイクルで継続的に部活動の在り方を見直していきます。
- 千葉県教育のリーダーを育成します。  
これからの千葉県教育を担う教員の育成は、優秀な人材を多数有する本校の重要な使命と考えています。優秀な教員が、高い志と誇りを持ち、校長や教頭など管理職や、指導主事や管理主事など教育行政に進めるよう意欲を高めます。

## イ 新しい教育課題に対応した学校組織体制の見直し

### (ア) 現状と課題

- ・ 19 の委員会が存在し、業務が重複したり、機能していない委員会もあるなど、委員会の集約や削減が必要です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症による臨時休校中に、オンラインでの授業や課題配信に当たり既存の分掌では対応できず、一部職員に負担が偏ってしまいました。
- ・ 今後も新たな教育課題が次々と発生することは必至であり、新たな教育課題解決に向けて、学校全体で組織的に対応することが求められています。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 委員会の在り方を根本的に見直します。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えた組織、分掌を立ち上げます。
- ・ 新たな教育課題に対して、柔軟に部・委員会など、分掌を見直し、最適な学校組織体制を整えます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 委員会の集約を図ります。  
委員会の業務を根本的に見直し、委員会の集約を図ります。法令や規則で規定されていない委員会については、原則廃止の方向で検討します。
- 感染症対策のため、新たな分掌を立ち上げます。  
新たな分掌を中心に、授業支援や遠隔教育に活用する学習支援ソフトを精選し、その活用を推進するための研修を実施します。また、新型コロナウイルス感染症による次の臨時休校に備えて、各家庭のICT環境整備の支援に取り組みます。
- 最適な組織体制を構築します。  
直面する教育課題が解決した際には速やかに分掌や委員会を廃止し、新たな教育課題が発生した際には速やかに新たな組織を立ち上げるよう、常に学校の組織体制を柔軟に見直します。

## ウ 新しい教育課題に対応した教員研修の充実

### (ア) 現状と課題

- ・ 本校は、若手教員を中心にワーキンググループ（WG）を立ち上げ、アクティブラーニングの視点からの授業改善に取り組んでいます。
- ・ この授業改善の取組を一層推進するために、クラスの生徒全員がタブレットやプロジェクタを活用して授業ができるアクティブラーニングルームを設置しました。そして、このアクティブラーニングルームの活用を普及するために教員研修を実施しています。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 不祥事根絶に向けて、職員一人一人のコンプライアンスに対する意識を高めます。
- ・ 学校全体で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組めます。
- ・ ICTを活用した授業改善や業務改善に向けて、教員研修の一層の充実を図ります。
- ・ 新しい教育課題に対応するため、迅速かつ適切な教員研修に取り組めます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- コンプライアンスに関する教員研修の充実を図ります。  
教育公務員としての使命と責任を自覚し、生徒の模範となり、職務の遂行に真摯に取り組めます。
- 個人情報の管理を徹底します。  
生徒情報の漏洩や調査書の誤記載など、不祥事の未然防止に向けて組織的なチェック体制を構築します。
- 職員の情報管理に対する意識の向上を図ります。  
クラウドを活用した学習支援ソフト Classi や G Suite 等の活用について、校内に利用規定を設け、管理を徹底します。
- 学校全体で授業改善に取り組めます。  
アクティブラーニングルームの活用や、各教科の「見方・考え方」を活用した「深い学び」の授業実践など、アクティブラーニングWGの成果を学校全体で共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組めます。
- ICTを活用した教育を一層推進します。  
新型コロナウイルス感染症による臨時休校後も、テレビ会議システムなど学習支援ソフトを活用して、遠隔から授業やホームルーム等を行うことができるよう、教員研修を実施します。

- 特別支援教育の一層の充実を図ります。

令和3年度から実施する生徒一人一人の教育的ニーズに対応した支援を行う「通級による指導」の実現に向け、発達障害など障害のある生徒に対する支援の方法や合理的配慮の決定に向けた手続きなど教員研修を実施します。

- 先進的な教育活動に挑戦する意欲を高めます。

令和3年度からは、第3期SSHの指定を受け、SSH推進部を中心に、先進的な学習や授業改善等に関する研究開発を進めます。定期的に教員研修会を開催し、その成果を組織的・計画的に学校全体に普及します。

### (3) 地域の期待に応え、信頼される豊かな学びのある学校を創る

#### ア 社会課題に挑むリーダーとイノベーターの育成に取り組むSSH

##### (ア) 現状と課題

- ・ 第2期SSHの指定最終年度を迎え、これまで取り組んできた7つの研究開発の評価を行い、課題を整理する必要があります。
- ・ 最終評価を受けるに当たり、本校のSSHのこれまでの取組を学校ホームページ等で、広く全国の高校に普及を図る必要があります。
- ・ 洗い出した課題の改善方法を検討し、次期研究開発について計画をまとめるなど、第3期の指定に向けて準備を進める必要があります。

##### (イ) 取組の方向性

- ・ 第2期SSH指定の最終年度の報告書が高く評価されるよう、中間報告で指摘を受けた内容の改善を図ります。
- ・ 第3期SSHの指定に向けて、研究開発のテーマと具体の取組について検討します。
- ・ 第3期SSHの指定を受け、グローバルに活躍し国内外の社会課題の発見・解決に挑むリーダーとなる人材や技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材の育成に取り組みます。

##### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 第2期SSHの成果をまとめます。  
令和2年度は、これまで取り組んできた7つの研究開発を「高度な理数系学力」「社会的実践力」「科学的倫理観」の3つの資質・能力の育成の視点からわかりやすく評価し、報告書をまとめます。
- 第2期SSHの成果を全国に発信し、取組の普及を図ります。  
第2期SSHの取組を全国の高校に普及を図るため、学校ホームページの充実を図るとともに、様々な機会を活用して生徒の課題研究の成果を広く全国に発信します。
- 第3期SSHの申請に向けて研究開発の改善を図ります。  
第2期の評価から明らかになった研究開発の課題とその改善方法を検討し、第3期SSHの研究開発に生かし、申請書を作成します。
- Society5.0社会で求められる人材を育成します。  
第3期SSHで生徒に育成する資質・能力については、国の「Society5.0社会に求められる人材像」を参考にして定め、学校の教育活動全体で育成に取り組めます。

- SSHの取組を精選し負担を軽減します。  
 具体のSSHの取組については、第1期SSHから続く多くの行事を見直し、生徒の資質・能力の育成に効果の高い行事を精選し、生徒・教員の負担を軽減します。
- 全生徒が課題研究に取り組みます。  
 普通科の生徒は1・2年次に「総合的な探究の時間」で、理数科の生徒は1年次「理数基礎探究」と2年次「理数探究」で、課題研究に取り組みます。
- 社会課題の解決に挑戦する文理融合の課題研究に取り組みます。  
 本校は、これまで普通科の生徒が「総合的な探究の時間」に環境問題など社会課題をテーマに課題研究に取り組む「長高メソッド」の研究開発に取り組んできました。この実績を基に、第3期SSHの課題研究では、SDG'sの17のゴールなど困難化・複雑化する社会課題や、人口減少・少子化が急激に進む地域の社会課題をテーマにして、AIやビッグデータなど先端技術を活用して解決を目指す、文理融合の課題研究に取り組みます。
- 新しい価値を創造する人材の育成に取り組みます。  
 研究開発のテーマの1つに、データサイエンティストの育成を掲げます。本校は、これまで課題研究の指導の中核として、データの統計的な処理について徹底して指導してきました。この実績を基に、千葉大学等と連携してデータサイエンスの基礎を指導し、数理的思考やデータ分析、活用能力を身に付けさせ、データから新しい価値を創造する人材の育成に取り組みます。
- 令和3年度からは、申請書に基づき第3期SSHの研究開発に取り組みます。

## イ 生徒の資質・能力を光り輝かせる理数科の在り方見直し

### (ア) 現状と課題

- ・ 本校の理数科は、地域の中学校の成績上位層が集まり、普通科より単位数を増やした文理融合のカリキュラムで、全員が2年生までに数学Ⅲまで学び、物理の課題研究に取り組むなど、英才教育に取り組んでいました。
- ・ クラスの半数近くの生徒が、東京大学文科一類や一橋大学など、文系の大学に進学していました。
- ・ 近年は入学希望者数が減少し、後期選抜で志願倍率が1倍を切るような状況です。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 令和3年秋に発表される新しい「県立学校改革推進プラン」の計画策定に向けて、理数科の在り方を見直します。
- ・ 学科名や教育課程、学校の組織体制などパッケージで変更し、理数科が生徒募集の目玉（学校の魅力）となるように再編します。
- ・ グローバルに活躍し国内外の社会課題の発見・解決に挑むリーダーとなる人材や技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材の育成に取り組めます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 本校のエース教員が指導します。  
進学指導重点校の教員公募制を活用して全県から優秀な教員を集めるとともに、その中でも各教科のエースと言われる教員が理数科の授業や課題研究を担当します。
- 理系・文系の2人担任制で指導します。  
理数科のクラスには、例えば数学と英語の教員の組合せなど、理系教科と文系教科を教える計2名の教員を学級担任として配置します。
- 学校全体で指導する体制を整えます。  
1年生から3年生までの学級担任を構成員とし、理数科主任をリーダーとする（仮称）理数科特別委員会を設置し、学校全体で理数科の生徒を指導する体制を整えます。
- 徹底した少人数・習熟度別授業を実施します。  
例えば、数学の授業は、1クラス40名の生徒を、習熟度別に3つのグループに分け、数学が得意な生徒は東京大学に入学できるように、数学が苦手な生徒はつまづいているところを確実に習得できるように、一人一人の学びの状況に合わせて授業を進めます。
- 文系大学にも進学できるように、文理融合のカリキュラムを編成します。  
SSHの教育課程の特例を活用して、1・2年次は、原則全員同じ教育課程で文系・理系の教科をバランスよく学び、3年次から進路に合わせて教科・科目を選択できるようにします。

- 大学や研究所で最先端の研究や実験に取り組みます。  
引き続き国のSSHの指定を受け、生徒は、千葉大学やかずさDNA研究所などと連携して研究や実験を進め、AIやドローンなど最先端の技術を使った課題研究に取り組みます。
- 社会課題の解決に挑戦する探究的な学習に取り組みます。  
生徒は、1年次の「理数探究基礎」で探究の基礎を学ぶとともに課題研究のテーマを考え、2年次から人文社会的な課題に興味・関心のある生徒は人文社会探究コースを選択し、自然科学的な課題に興味・関心のある生徒は自然科学探究コースを選択して、「理数探究」で課題解決に取り組みます。
- 課題研究の成果を入試に生かします。  
3年次には、課題研究の取組で培った資質・能力とその成果を生かし、学校推薦型選抜（推薦入試）や総合型選抜（OA入試）に取り組めるよう、選択科目を設置します。
- グローバルな環境で学べます。  
台湾やマレーシアの高校や大学で、自分たちが取り組む課題研究について、英語で取組を発表したり、現地の学生と意見交換したり、一緒に研究を進めます。また、アメリカやオーストラリアの姉妹校に短期留学したり、スウェーデン等から留学生を迎え一緒に授業を受けたり、グローバルな環境で学ぶことができます。
- 理数科の名称を「探究科」に変更します。  
文理融合のカリキュラムでより探究的な学習を推進するため、理数科の名称を「探究科」に変更する方向で県教育委員会と協議します。

## ウ 個別最適化学習の導入など、質の高い授業を目指したICT環境整備

### (ア) 現状と課題

- ・ 本校は、コンピュータ教室だけでなく、アクティブラーニングルームを設置し、クラス全員が一人一台タブレットを使用し、意見を交換し、グループで意見をまとめて発表するなど、ICTを活用した質の高い授業の実現を目指しています。
- ・ クラウドを活用した学習支援ソフトClassiやスタディサプリ、G Suite等を活用して、生徒は家庭で、課題に取り組んだり、テストを受けたり、授業動画を見て学習したり、テレビ会議システムで担任や授業担当者と個別に学習や進路について相談することができます。
- ・ 来年度からは、国のGIGAスクール構想により、一人一台端末の環境で授業を受けてきた中学生が入学してくることとなり、高校のICT環境の整備は喫緊の課題です。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 普通教室で、教員がプロジェクタ等のICTを活用して授業が実施できる環境を整えます。
- ・ ICTを活用して、生徒が遠隔でも授業が受けられる環境を整えます。
- ・ AIソフトを活用した個別最適化学習の導入を図ります。
- ・ 生徒が一人一台ノート型パソコンを利用し、ノートや筆記用具として活用して授業を受けることができるよう、ネットワークも含めICT環境を整えます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 普通教室でICTを活用した授業に取り組みます。  
令和2年度中に、校内ネットワークを再敷設して普通教室棟の校内LANを無線化し、全ての普通教室で、教員がプロジェクタ等のICTを活用して授業を展開します。
- 遠隔教育の実現に取り組みます。  
ICTを活用して家庭でも授業が受けることができるよう、保護者に各家庭のICT環境の整備を依頼します。また、全国校長会等を通じて国に新たな経済的支援制度の創設を要望します。
- 学習支援ソフトを精選し一層の活用を図ります。  
現在導入しているクラウドを活用したClassiやスタディサプリ等の学習支援ソフトについて、活用方法等を精査・精選し、併せて、ロイロノートなど新たな学習支援ソフトの導入も視野に入れて、生徒の利便性の向上を図ります。
- ネットワークのBYOD化を図ります。  
令和5年度までに、ネットワークのBYOD化（私物端末の接続ができるネットワークの構築）を図り、全ての生徒が各自のノート型パソコンを利用して、授業を受けることができる環境を整えます。

○ 個別最適化学習を実現します。

生徒が各自のノート型パソコンでスタディサプリ等の学習支援ソフトを活用するとともに、更に Atama+ など A I ソフトを導入し、個別最適化学習を実現します。

(A I ソフトは、生徒のつまずきを瞬時に判断し、修正方法を示し、同様の問題を繰り返し出題することで、生徒のつまずきを解消します。)

## エ 多様な生徒への支援の充実と「通級による指導」の導入

### (ア) 現状と課題

- ・ 精神的に弱い生徒や、入学後に不登校傾向となる生徒など、心のケアや支援を必要とする生徒が増えています。
- ・ 視覚や聴覚に障害のある生徒や、クラスに一定の割合でいると言われている発達障害のある生徒が、障害のない生徒と一緒に授業を受けています。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 全ての教育活動を通して、生徒の自尊感情や自己肯定感の向上に取り組みます。
- ・ 不登校など様々な課題を抱えた生徒や保護者を支援するため、各教員の教育相談に関する意識を高めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを中心とした相談支援体制の充実を図ります。
- ・ 身体に障害のある生徒やADHDなど発達障害のある生徒を対象に、それぞれの能力や可能性を最大限に伸ばすことができるように、「通級による指導」を導入します。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 生徒の自己肯定感や自尊感情を高めます。  
本校の歴史や伝統、そして卒業生の活躍等を学ぶ、自校教育の充実を図ります。また、様々な分野で活躍している卒業生を招へいし、生徒との意見交換する「天夢塾」の取組について、一層の充実を図ります。
- 教員の教育相談に関する意識向上を図ります。  
総合教育センター等の専門機関から講師を招へいして校内研修会を開催し、教員のカウンセリングに関する基本的な知識や技術の習得を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、専門機関との連携の在り方等について理解を深めます。
- 学校全体で支援を必要とする生徒の情報共有を図ります。  
様々な課題を抱え支援が必要な生徒に関して、学校全体で情報共有を図るため、養護教諭や特別支援教育コーディネーター、学年主任を中心に開催する生徒情報交換会の一層の充実を図ります。
- 令和2年度は、「通級による指導」の準備を進めます。  
「高等学校における『通級による指導』」の研究指定を受け、袖ヶ浦特別支援学校からの兼務職員と各学年の特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援が必要な生徒を把握し、保護者と具体の支援方法や合理的配慮の内容について協議を進めます。
- 令和3年度から「通級による指導」を実施します。  
教育課程に「自立活動」を位置付け、各生徒の教育的ニーズに合った支援に取り組み、「通級による指導」の実施に取り組みます。

## オ 水害にも負けない安全・安心な学校づくり

### (ア) 現状と課題

- ・ 令和元年度は、茂原市で台風等の大きな災害が繰り返し発生し、多くの住民が被災し、本校も避難所として地域住民を受け入れました。特に、10月25日の大雨の際には、多くの生徒が帰宅困難となりました。
- ・ 令和2年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月から5月まで臨時休校となり、学校再開後も3密を避けるとともに、検温、マスク、手洗い、消毒の徹底を図っています。
- ・ 吹奏楽部とマンドリン部の活動場所となっている旧木造校舎については、耐震化がされておらず、大きな地震等が発生した場合には生徒の安全を守ることができない状況です。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 避難訓練の実施や備蓄物資の充実を図るなど、災害への備えを徹底します。
- ・ 災害発生時の教育活動の中止や生徒の登下校を迅速に判断し、生徒・保護者に周知します。
- ・ 新型コロナウイルスの感染防止に努めます。
- ・ 吹奏楽部とマンドリン部の活動場所について検討します。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 帰宅困難な生徒の発生に備えて備蓄物資の充実を図ります。  
全生徒が帰宅できない場合でも十分な食料と水を備蓄するとともに、防寒や感染防止に備え、物資備蓄の充実を図ります。
- 生徒の安全を第一に考え、災害発生時の安全対策に取り組めます。  
緊急対応マニュアルを見直し、災害発生時に迅速、的確な行動ができるよう避難訓練を繰り返し実施するなど、組織体制を整えます。
- 迅速な判断と情報提供に努めます。  
大雨が予想される際など、災害時の教育活動の中止の判断基準とその実施時期を検討し、生徒・保護者に周知を図ります。また、マチコミメールやClassiなど、より良い周知方法を検討し、整備します。
- 感染症の拡大防止に徹底して取り組めます。  
新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備え、感染症予防への生徒・保護者の意識を高め、検温・マスク・手洗い・消毒の励行や、3密を避けるなど、新しい生活様式の実現に取り組めます。
- 生徒の安全を第一に考え、全ての教育活動を見直します。  
吹奏楽部とマンドリン部の活動場所については、生徒の安全を第一に考え、できるだけ早期に、保護者やOB、OGの理解と支援を得て活動場所を確保します。

#### (4) 学校と一体となって「長高生の夢」の実現を図る地域を目指す

##### ア 開かれた学校づくり委員会とミニ集会の一層の活性化

###### (ア) 現状と課題

- ・ 茂原市の教育長や中学校長、塾関係者、PTA会長、同窓生・地域住民の代表など10名に委員を依頼し、本校の教育活動について評価していただき、改善に向けて意見を伺っています。
- ・ また、学校職員と保護者、地域住民が教育課題について意見交換を行うミニ集会を文化祭の一般公開日に実施し、保護者や地域住民に、本校の教育活動について理解と協力をお願いしています。

###### (イ) 取組の方向性

- ・ 積極的に本校の教育活動について情報発信し、保護者や同窓会、地域住民に理解と協力をお願いします。
- ・ 開かれた学校づくり委員会の活性化を図り、地域コーディネーターを中心に、地域の教育資源の積極的な発掘と活用を図ります。
- ・ SSHや長高メソッドの課題研究の指導や、インターンシップなどキャリア体験の実施に向けて地域と一層の連携を図ります。

###### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 本校の教育活動を積極的に情報発信します。  
PTA会報（長月会会報）や同窓会報（長高同窓會報）、学校ホームページ、SSH通信、ミニ集会など様々な媒体を使い、積極的に本校の取組について保護者・地域に情報発信し、本校の教育活動に理解と協力が得られるよう取り組みます。
- 学校ホームページの充実を図ります。  
学校ホームページについては、ネットコモンズを活用しCMS化を図り、全ての職員がどこからでも更新できるよう再構築します。
- 体験的な学習の取組に、より一層の協力をお願いします。  
地元地域の豊かな自然を観察・調査・研究する自然体験や、地元企業でのインターンシップなどキャリア体験の機会を設けるなど、生徒の体験的な学習がより豊かになるよう、地域住民や企業等との連携について一層の充実を図ります。

## イ 学校と家庭が一体となった教育の充実

### (ア) 現状と課題

- ・ 昨年 11 月に実施した、令和元年度の学校評価アンケートでは、保護者の 80% が、本校の教育活動に「満足」「ほぼ満足」と回答しています。
- ・ 本校の P T A（長月会）は、多くの保護者が大学への研修視察に参加したり、P T A 会報（長月会会報）を年 2 回発行したりするなど、本校の教育活動を理解し、協力してくれています。
- ・ 本校は、学年や各分掌から年間を通して、学年だよりや進路だより、保健室だより、相談室だより等を作成し、進路指導や生徒指導の課題や取組等について積極的に情報発信しています。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 本校の教育活動についてより一層情報発信に努め、保護者と学校が一体となって本校の教育活動を推進します。
- ・ 新しい教育課題等について積極的に情報発信し、家庭教育の支援に努めます。

### (ウ) 具体的に 5 年間で取り組むこと

- 本校の教育活動を積極的に情報発信します。  
P T A 会報（長月会会報）や同窓会報（長高同窓會報）、学校ホームページ、S S H 通信、ミニ集会など様々な媒体を使い、積極的に本校の取組について保護者・地域に情報発信し、本校の教育活動について理解と協力が得られるよう取り組みます。
- 家庭教育の支援に努めます。  
高大接続改革の動向やオンラインゲーム依存症児童生徒の増加など、新しい教育課題について保護者の理解を図るため、P T A 研修会やミニ集会、学年だより等を活用して、各家庭に積極的に情報提供し、家庭の教育力の一層の向上を図ります。

## ウ 地域の協力を得て入学希望者の増加を図る取組

### (ア) 現状と課題

- ・ 令和2年3月の入学者選抜では、前年度に比べ大きく志願倍率が低下しました。特に、理数科は、後期選抜で志願倍率が1.0倍でした。
- ・ 昨年度、これまで管理職だけで実施してきた中学校訪問を、総務委員会の職員も分担して実施し、理数科やSSHの取組に関して中学校側の理解を得ることができました。
- ・ 本校が、令和4年度から始まる新しい県立学校改革推進プランで、学校統合の対象とならないためには、志願倍率の向上がマストです。

### (イ) 取組の方向性

- ・ 現在、茂原市内にある公立3校、私立1校の体制を維持することについて、地元地域に理解と支援をお願いします。
- ・ 広報活動の充実に取り組みます。
- ・ 中学校での出前授業に積極的に取り組みます。
- ・ 千葉市内の高校に流出する生徒と、千葉市内から流入する生徒を受入れる学校の体制を整えます。

### (ウ) 具体的に5年間で取り組むこと

- 茂原市の4高体制維持の必要性を訴えます。  
現状の4高体制を維持することが、地域経済を守り、地元地域を支える人材育成に必要不可欠であることを、開かれた学校づくり委員会や同窓会、ミニ集会等を活用して地域に訴え、地元地域の理解を図り、支援をお願いします。
- 広報活動の充実に図るため、新たな分掌を立ち上げます。  
新たな分掌を中心に、学校全体で中学校訪問に取り組むとともに、学校説明会や塾訪問、学校ホームページ等を活用し、広報活動の充実に取り組みます。
- 学校ホームページの充実に図ります。  
新たな分掌を中心に、学校ホームページのCMS化を図り、全ての職員がどこからでも更新できるように再構築し、迅速に発信できる体制を整えます。
- 出前授業に積極的に取り組みます。  
近隣中学校だけでなく、千葉市や市原市内の中学校で出前授業を実施し、多くの中学生に長生高校の授業を体験してもらい、志願者数の拡大を図ります。
- 理数科の在り方を見直し、全県から志願者を集めます。  
理数科は、学区による志願の制約がないので全県から志願者を集めることができます。そこで、理数科の在り方を見直し、理数科の魅力を高め、全県の中学生から選ばれる学科に大きく再編します。

※ 茂原市の地域経済を守り、地元地域を支える人材を育成するためには、現行の公立3高、私立1高が、それぞれの高校のミッションを引き続き果たし、存続することが必要です。

もし、4高のうち1高が統合されて無くなれば、その高校に進学を希望していた中学生は、茂原市外の高校に進学するか、市内の他の高校へ進学することとなります。

残った市内の3高は、これまでと異なる生徒、学校生活に対する期待や進路希望を持った生徒を受け入れることとなります。

例えば、本校のミッションは生徒を東京大学など質の高い学びのある大学に進学させることです。

しかし、本校が引き続きこれまでどおりのミッションを果たそうとした場合、生徒が求める高校の姿と異なるので「厳しすぎる、宿題だらけだ、楽しくない」などの意見が生徒から中学校に発信され、本校の志願者が大幅に減少することが予想されます。

逆に、本校がこれまでと異なるミッションを掲げ、例えば運動部活動の結果を目指した場合、東京大学に進学するような中学生は、本校には入学せず、他地域の高校に進学するようになります。

また、同窓生や地域住民が本校に抱いていたアイデンティティを失い、本校への応援や支援は大きく減退することが予想されます。

さらに、顧問の定期異動がある県立高校では、運動部活動で継続的に結果を出すことは困難であり、運動部活動に参加を希望する生徒を安定的に確保することは難しいと考えます。

つまり、市内の1高が統合されて無くなれば、他の3高も存続の危機に直面し、地元地域を支える人材は育成されず、地域は活気を失い、地域経済は一気に衰退します。

したがって、各高校の募集定員が小さくなっても、地域に中学生が選べる多様な学びのある環境を残すことが、地域が生き残るために必要不可欠だと考えます。

## 6 指標

本計画の進捗状況を把握するため、基本目標毎に指標を定め、PDCAサイクルで「重点的な取組」など教育活動の改善を図ってまいります。

### (1) 基本目標「志を持ち、粘り強く、自ら挑戦する生徒を育てる」

| 指 標                        | 基 準<br>(令和2年3月)           | 目 標<br>(令和7年3月)   |
|----------------------------|---------------------------|-------------------|
| 国公立大学合格者数<br>(現役生のみ・現浪の合計) | 現役生のみ 66 名<br>現浪の合計 100 名 | 80 名以上<br>120 名以上 |

※ 令和4年3月からは卒業生数が40名減少するので、目標の見直しが必要です。

### (2) 基本目標「使命感を持ち、チーム学校を実現する教員となる」

| 指 標                         | 基 準<br>(令和2年6月) | 目 標<br>(令和7年3月) |
|-----------------------------|-----------------|-----------------|
| 1か月当たりの在校等時間が<br>45時間以上の教員数 | 32名             | 0名              |

### (3) 基本目標「地域の期待に応え、信頼される豊かな学びがある学校を創る」

| 指 標                     | 基 準<br>(令和2年3月)                                        | 目 標<br>(令和7年3月) |
|-------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------|
| 入学者選抜の志願倍率<br>(普通科・理数科) | 普通科前期 1.63 倍<br>後期 1.27 倍<br>理数科前期 1.44 倍<br>後期 1.00 倍 | 増加を目指します        |

### (4) 基本目標「学校と一体となって『長高生の夢』の実現を図る地域を目指す」

| 指 標                       | 基 準<br>(令和2年6月) | 目 標<br>(令和7年3月) |
|---------------------------|-----------------|-----------------|
| 1か月当たりの学校ホームページ<br>アクセス回数 | 調査中             | 増加を目指します        |

千葉県立長生高等学校 5 か年計画

**長 生 高 等 学 校 改 革 プ ラ ン**

令和 2 年 9 月発行

〒297-0029 茂原市高師 2 8 6

電話 0475-22-3378 FAX 0475-22-3370